

まちのアルバム

お買い物帰りに♪移動図書館がスタート

毎月第3金曜日に実施される移動図書館が6月から始まり、野洲図書館のさまざまな分野の本が並びました。

貸し出し利用をした人は「買い物ついでに利用できるのがよい。図書館を利用する時は好きな分野の本棚ばかりを見てしまうが、他分野の本も目に入り、新たな本との出会いがある。」と話しておられました。

第1回目となるこの日は、キックオフ企画として県立図書館司書によるおはなし会も行われ、たくさんの親子や買い物客が聞き入っていました。

▼6月16日 平和堂アル・プラザ野洲



▼6月14日 野洲図書館



琵琶湖よし笛の音色を楽しみませんか？

びわ湖よし笛アンサンブル・やすは、琵琶湖よし笛の音色に魅せられた人が集まり、毎月第1・3水曜日に活動しながら、福祉施設などへの訪問演奏もされています。

この日は体験教室が開催され、参加した人は真剣な表情で取り組み、息遣いの強弱で変わる音色を楽しんでいました。

代表の脇阪千津子さんは「葦の自然な姿から出る素朴な音色を、ぜひ楽しんでほしい。」と話しておられました。

歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

226

歴史民俗博物館 ☎587-4410、Fax587-4413

四季耕作図屏風

博物館では近年に収集した文化財を紹介するテーマ展を下記のとおり開催します。本展でご覧いただきたい資料が四季耕作図屏風です。

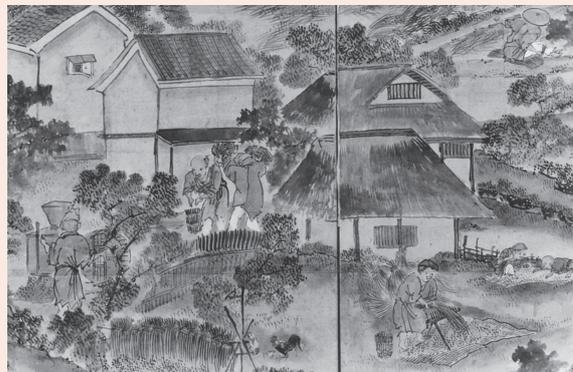
四季耕作図とは農業に関する事柄や風景を描いたものです。室町時代、稲作と養蚕を描いた耕織図が中国より伝わったことで、画題として定着していったとされています。

ご紹介する四季耕作図屏風は令和4（2022）年に当館へ寄贈いただいたものです。右隻と左隻の二隻の屏風が一对になったもので、一対と数えます。また、右隻・左隻はともに六面で構成され、六つ折りのため、六曲と数えます。

本作は、稲作を中心に春から冬にかけての農事風景を描いた六曲一対の屏風で、その制作時期は江戸時代の終わり頃と考えられています。掲載写真は本屏風の一部で、

唐箕（写真左下）や千歯こき（写真右下）などの農具を用いた様子が細かく描かれており、当時の農具や農村風景を考えることができます。

四季の移ろいのなかで、江戸時代の農村における人々の暮らしを本作を通して考えていただく機会となれば幸いです。（博物館学芸員 齊藤慶一）



四季耕作図屏風 一部(当館蔵)

■夏期テーマ展「新収蔵品展 —資料収集と博物館の役割—」

7月15日(土)～10月1日(日)

※会期中の休館日：月曜日（7月17日、9月18日は開館）、7月18日(火)、9月12日(火)～14日(木)・19日(火)

※市民は入館無料（運転免許証やげんきカードをご提示ください。）

※市ホームページ等で事前に開館状況をご確認の上、ご来館ください。